

臨床研究「小児複雑性虫垂炎に対する Interval Appendectomy 時の手術困難性を示唆する指標の解析」について

筑波大学附属病院小児外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

小児虫垂炎のうち、虫垂の炎症が高度で穿孔を起こし、膿瘍（膿のたまりができること）をつくってしまった状態である膿瘍形成性虫垂炎では、近年、初期治療では虫垂切除術を施行せず抗菌薬治療を主体とした保存的治療を先行し、炎症がおさまった数か月後に虫垂切除術を行う Interval Appendectomy（以下、IA）が主流です。IA は緊急で行う虫垂切除術と比較し、合併症の軽減が期待できるとされています。しかしながら、保存的治療が奏功した患者さんの中でも IA の手術時に強固な癒着がみられ、手術が難しくなる（手術時間が延長してしまう）場合があります。初期の保存的治療や、その後のどのような経過や検査所見が、IA の手術時間に影響するのかこれまで明らかにされていません。この研究では過去に膿瘍形成性虫垂炎と診断され、当科で IA の手術を受けた患者さんの診療録（カルテ）を後方視的に検討し、保存的治療での経過や検査所見と IA の手術時間との関係を明らかにすることを目的としています。

② 研究対象者

2010 年 1 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに膿瘍形成性虫垂炎に対して保存的治療が行われた後に、当院で虫垂切除術の手術を受けた患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024 年 12 月 31 日まで

④ 研究の方法

研究対象となる患者さんの診療録を用い、下記⑤の項目について検討を行います。全ての診療情報は匿名化され、患者さんの名前がわからない状態で学会や論文で報告を行います。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

診療録に記載されている、研究対象となる患者さんの年齢、性別、身長や体重、手術所見、病理診断、保存的治療時の入院期間や血液検査・画像所見、IA を行った際の入院期間や血液検査・画像所見

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 小児外科 クリニカルフェロー 後藤悠大

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場

合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

TEL：029-853-3094（小児外科医局：平日9時から17時）

029-853-3110（救急外来受付：上記以外の時間帯）

所属・担当者名：小児外科 後藤悠大（ごとう ゆうだい）